

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	榎原スコアの杜 大和八木ステーション		
○保護者評価実施期間	2025年3月4日		～ 2025年3月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年3月4日		～ 2025年3月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが意見を言えるほど信頼関係が築かれており、安心感のある環境が整っている。	子どもとの日常的な対話や感情のキャッチができており、家庭とも連携が取れている	女性スタッフの配置を検討し、より多様な相談先を提供することで支援体制の柔軟性を高める
2	子どもの「楽しい」という体感と、保護者の安心感が両立していること。	子ども一人ひとりの様子を丁寧に見取り、無理のないペースで活動を組んでいる。	保護者との連絡帳や写真報告など、家庭との情報共有の工夫を深めていく
3	学習支援に対する期待感があり、子どもの成長を支える基盤がある。	一人ひとりの課題に応じた支援(例:プリントや読み聞かせなど)を意識している。	個別学習プログラムの導入や、家庭学習との連携を強化していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	女性職員の不在により、同性の職員に相談したいというニーズに対応しきれていない	スタッフ構成に男女差があり、保護者・本人からの安心感に影響している	女性スタッフの採用促進と、相談しやすい雰囲気づくり(例:定期的なヒアリングタイムの導入)
2	学習支援が限定的で、学校への復帰や家庭学習との連携が弱い印象を与えている	支援内容が「遊び・安心」中心であり、学習面の個別対応がシステム化されていない	個別学習支援プログラムの開発・実施と、保護者との連携による学習支援方針の明確化
3	利用時間帯やスケジュールの柔軟性が低く、家庭の状況と合わない場合がある	スタッフシフトや送迎対応など運営体制の都合で、時間の自由度が限定されている	時間帯別ニーズ調査の実施と、希望者向けの「延長・短時間通所」モデルの試験導入

公表 者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 福原スコールの杜 大和八木ステーション

公表日 2025年4月14日

利用児童数 6

回収数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2	0	0	0	女の先生がいてるといいなーと子ども本人も言っていたので、女性の先生がいると色々相談しやすいのかなと思います。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。	2	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	2	0	0	0		
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性の高い支援が提供されていると思いますか。	2	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援に反映されていると思いますか。	2	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に把握されていると思いますか。	2	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援計画」が示している内容が盛り込まれていると思いますか。	2	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1	0	0	1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域での連携が図られていると思いますか。	0	0	1	1		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担金等の説明がなされていると思いますか。	2	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされていると思いますか。	2	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)が提供されていると思いますか。	0	0	0	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達上の課題について相談していると思いますか。	1	0	0	1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われています。	1	0	0	1		

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同	0	0	0	2		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備さ	0	0	0	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされ	1	0	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、	0	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1	0	0	1		
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯	0	0	0	2		
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他	0	0	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知さ	0	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな	1	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	2	0	0	0		

公表 所における自己評価結果

事業所名	榎原スコーレの杜 大和八木ステーション	公表日	2025年4月14日
------	---------------------	-----	------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	0		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切	3	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境にな	3	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている	3	0	掃除機をかけることや、指導室に針等が落ちていないことを確認している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用すること	3	0		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り)	3	0		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機	0	3	今回保護者向け評価が初回のため未実施	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業	3	0	週1対面のミーティング時に行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につな	0	3		今後拡大や利用者の増加に伴い設置を検討すること
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法	3	0	入社時に社外の教育コンテンツを持ち込んでいる	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こども	3	0	不登校の児童生徒が多いため、より丁寧につくることを事業所として留意している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責	3	0	常に児童生徒の実態については職員は情報にアクセスできるようにしている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援	3	0		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いた	3	0	文面で残す支援内容と、文章化しにくい内容についてはミーティング時に共有することとしている。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児	3	0		地域移行について計画しているものの、利用できる機会が少ないため今後の課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	個人に任せる形ではなく、チームで行うことを基本としている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	常に子どもの成長に合わせて創意工夫を盛り込んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ	3	0	どちらかに偏らないよう支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われ	3	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われ	3	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証	3	0	ミーティング時に振り返りを行っている。	
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直し	3	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との	3	0		より多くの事業所と関わっていく必要性があると感じている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉	3	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージヨ	0	3		未就学児の利用はないものの、今後のニーズや支援の質を考えたとき、ノウハウや知識をまとめていく必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との	0	3	未就学児がいないため。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助	0	3		利用者の拡大に伴って多様性が増すため、根本的な知識や対応などを学ぶ機会を設ける。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等	3	0		
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じ	0	3		利用者の拡大に伴って多様性が増すため、根本的な知識や対応などを学ぶ機会を設ける。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で	0	3		小学生以上の児童生徒が中心となるため、今後の検討課題とする。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達	3	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支	3	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な	3	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意	3	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い	3	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適	3	0		個々に応じて行っているが、よりこちらから能動的に機会を設ける時間を用意する必要がある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する	3	0		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制	3	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する	3	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた	3	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事	0	3		
非 常 時 等 の 対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マンユ	3	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発	3	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況	3	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基	3	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他	3	0		

応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよ	3	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策	3	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切	3	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、	3	0		